

劇薬

貯法：気密容器、室温保存
使用期限：5年
(容器に表示の使用期限内
に使用すること)

中枢興奮・鎮痛剤

日本薬局方 カフェイン水和物

カフェイン「ホエイ」

Caffeine

承認番号	16000AMZ06282
薬価収載	1950年9月
販売開始	1951年7月
再評価結果	1998年3月

【組成・性状】

組成

販売名	カフェイン「ホエイ」
成分・含量 (1g中)	日本薬局方 カフェイン水和物 1g含有

製剤の性状

本剤は白色の柔らかい結晶又は粉末で、においはなく、味はやや苦い。

【効能・効果】

ねむけ、倦怠感

血管拡張性及び脳圧亢進性頭痛(片頭痛、高血圧性頭痛、カフェイン禁断性頭痛など)

【用法・用量】

カフェイン水和物として、通常成人1回0.1~0.3gを1日2~3回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)胃潰瘍又はその既往歴のある患者〔胃液分泌を促進するため、悪影響を及ぼすおそれがある。〕
- (2)心疾患のある患者〔徐脈又は頻脈を起こすことがある。〕
- (3)緑内障の患者〔症状が悪化するおそれがある。〕

2. 相互作用

併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
キサンチン系薬剤 アミノフィリン ジプロフィリン テオフィリン等 中枢神経興奮薬	過度の中枢神経刺激作用が現れることがある。	併用薬の代謝・排泄を遅延させることがある。
MAO阻害剤	頻脈、血圧上昇等が現れることがある。	
シメチジン	過度の中枢神経刺激作用が現れることがある。	本剤の代謝・排泄を遅延させることがある。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類	頻度	頻度不明
大量投与	振戦、不整脈、虚脱、めまい、不眠、不安、瞳孔散大等	

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人および授乳婦には長期連用を避けること。〔胎盤を通過し、また母乳中に容易に移行する。〕

6. 過量投与

徴候、症状：消化器症状(悪心、嘔吐等)、循環器症状(不整脈、血圧上昇等)、精神神経症状(痙攣、昏睡)、呼吸器症状(呼吸促進、呼吸麻痺等)などの増悪を起こすことがある。

処置：胃洗浄や吸着剤・下剤の投与により薬物を除去し、輸液等により排泄促進を行う。また、興奮状態には対症療法としてジアゼパム注、フェノバルビタール注などの中枢神経抑制薬投与を考慮し、呼吸管理を実施する。

【薬効薬理】

- 1)カフェインは、大脳皮質を中心に中枢神経を興奮させ、脳幹網様体の賦活系の刺激により知覚を鋭敏にし、精神機能を亢進させる。
- 2)カフェインは、脳細動脈に直接作用して脳血管を収縮させ、その抵抗性を増加して脳血流量を減少させる。

【有効成分に関する理化学的知見】

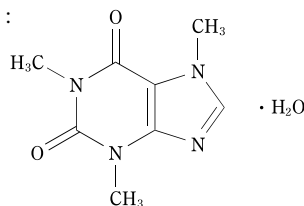
一般名：〔日局〕カフェイン水和物 (Caffeine)

化学名：3,7-Dihydro-1,3,7-trimethyl-1H-purine-2,6-dione monohydrate

分子式：C₈H₁₀N₄O₂・H₂O

分子量：212.21

構造式：



性状：本品は白色の柔らかい結晶又は粉末で、においはなく、味はやや苦い。

本品はクロロホルムに溶けやすく、水、酢酸(100)又は無水酢酸にやや溶けにくく、エタノール(95)に溶けにくく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくい。

本品1.0gを水100mLに溶かした液のpHは5.5~6.5である。

本品は乾燥空气中で風解する。

融点：235~238℃(乾燥後)

【包装】

25g 500g

※※【文献請求先】

ファイザー株式会社 製品情報センター
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
学術情報ダイヤル 0120-664-467
FAX 03-3379-3053

製造販売元

マイラン製薬株式会社
大阪市中央区本町2丁目6番8号

※※販売

ファイザー株式会社
東京都渋谷区代々木3-22-7

